

令和2年度 第1回 北区民まちづくり会議開催結果

1 日 時

令和2年12月10日（木）午後6時30分～午後8時30分

2 場 所

北区役所西庁舎2階講堂

3 出席者等

別添資料1のとおり

4 概 要

ワークショップを開催し、北区基本計画（案）中の「10のライフステージや属性ごとの取組アイデア」について少人数の3グループに分かれて、意見交換を行った。

主な意見

（1） Aグループ（子ども・子育て・高齢者2）

- ・「最近の子どもは忙しい」と書かれているが、そうでない子どももいる。取組によってどのような子どもを対象とするのか、分けて考えても良いのではないか。
- ・子育てをする上で、コロナの影響は非常に大きい。交流や接点ができるのは良いことという前提で取組が書かれているが、現状のコロナ禍の感覚からすると少し違和感がある。
- ・「支援を要する高齢者」とあるが、「要支援」と「要介護」では、考えなければならないことが違う。地域でできることには限界があり、ある程度で線引きしなければいけないのが現実。各々の機関が持っている個人情報をごくまで開示できるのかにもよる。町内会単位で言えば、役員が毎年変わる中で、情報共有するのが難しい。
- ・最近では、地域の会議においてもオンライン会議を活用しようという流れがある。「ライン教室の開催」とあるが、ラインだけでなく、オンラインやスマートフォンのことについて広く教えてもらう機会があると良い。
- ・高齢者についての取組は、支援されることばかりであるが、長年の経験を活かすだけでなく、自ら社会に働きかけるような、能力を活かすような取組も考えた方が良い。

（2） Bグループ（働き世代・高齢者1・障害のある人）

- ・働き世代は忙しく、地域に関わることも難しいが、楽しむ場も欲しいのではないか。自分の時間は朝・夜・休日と限られる中で、健康に関わる取組など、具体的に参加したくなるようなものがあると良いのではないか。
- ・地元企業と地域の連携を考えるのであれば、従業員が地域に関わるメリットを考えた方が良い。
- ・高齢者1について、「介護の不安や悩みを和らげる機会」とあるが、介護の不安に限定する必要はない。生活をする上での様々な不安などを共有する機会でも良いのではないか。また、「孤食の解消」とあるが、「孤食」という言葉はネガティブなニュアンスがあるので、「個食」としてはどうか。
- ・高齢者の地域活動への参加については、対話するのが苦手な人をどうやって導いていくのかがポイントではないか。特に年配の男性では、知らない人がいる場所に行くのが苦手という人も多い。どのように巻き込んでいくのかが重要である。知っている人からの誘いをどのように作れるか。
- ・障害のある人について、「障害者施設と地域が連携して、障害がある人が参加できる機会を整える」とあるが、施設側からすると、地域に出向くことは、ハードルが高い。行った先の環境によっては行くことができる人が限られてしまうので、地域側から施設に行ってもらう方が気軽に連携できる。集う場所の環境が整っていなければ、参加は難しい。
- ・まだ障害のある人への理解が広まっていないと感じる事例の紹介があり、障害のある人について知る機会を増やしていくことから始めていくことが重要であると感じている。

(3) Cグループ (若者・大学生・北山に住む人・外国から来た人)

- ・若者の中には、全く地域と接点がない人もいる。情報も入ってこなければ、地域と接する機会もない。地域コミュニティに関心を持っている人は関わっているが、そうでない人たちをどう巻き込むかを考えることが重要。
- ・思いつきやアイデアを気軽に共有する機会や場があると良いのではないかな。そのような場をつくることで地域とのつながりが生まれ、若者主体の場ができるのではないかな。
- ・大学生は、バイトや部活で忙しい。授業をうまく活用して取組ができると良いのではないかな。インターンで地元企業を体験する事例はあるが、短期間で職場体験してもなかなか就職につながらない。ある程度長期的に体験を提供することで、深く知る機会をつくることのできるのではないかな。
- ・山間部については、課題も多いが魅力も多い。新しい暮らし方や働き方を発信することで魅力が増していくのではないかな。若者主体の場と山間部をうまく組み合わせ、山間部をテーマに取組を広げていけるのではないかな。一方で、山間部に住んでいる人はどのように思っているのかということを考える必要もある。
- ・留学生は多いが、地域活動では見かけない。言葉の壁が大きいのではないかな。こちらから働きかけることも必要。まち側が、もっと相手のことを知ることから始めると、外国から来た人も地域に入りやすいのではないかな。また、外国から来た人にその国のことを紹介してもらっただけではなく、外国の人が集まる場にまち側も入っていくことも必要。こちら側から積極的に教えてほしいというスタンスが必要ではないかな。

(4) 全シートに共通する意見

- ・「まち」が主語となっており、学区や団体をまたぐ取組が多く記載されているが、誰が主体かということ、明確にする必要がある。
- ・既存の取組も多いので、それを活用すると、うまく進むのではないかな。
- ・様々な取組が書かれているが、誰が進めていくのか。それも含めて今後、具体的に考えていけると良いのではないかな。

(5) 座長によるまとめ

- ・10のライフステージ等の取組について気になるのは、イメージが先行しており、具体的に誰がどのように進めていくのかということである。その辺りは、情報収集をして具体化する必要がある。また、今年を含めた残り6年でどこまで進めるのかということも考えなければいけない。焦点化も必要ではないかな。
- ・どれだけ多く参加する人を集められるかが最大の焦点である。まちで暮らす我々がどのように進めていくのか。住民参加が非常に重要な点である。
- ・以上の2点を重点的に考え進めていく必要がある。